

令和6年度いわき市保健医療審議会 歯科口腔保健協議部会



令和7年1月16日(木)17:30~/健康学習室



1. 開会

2. あいさつ

3. 報告事項

(1) いわき市の歯科保健の現状について

(2) 令和5年度庁内各課の取り組み（健康いわき21（第三次）関連事業の評価）

(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み

4. 意見交換

フッ化物洗口事業の効果検証について



(1) 報告事項

いわき市の歯科保健の現状について

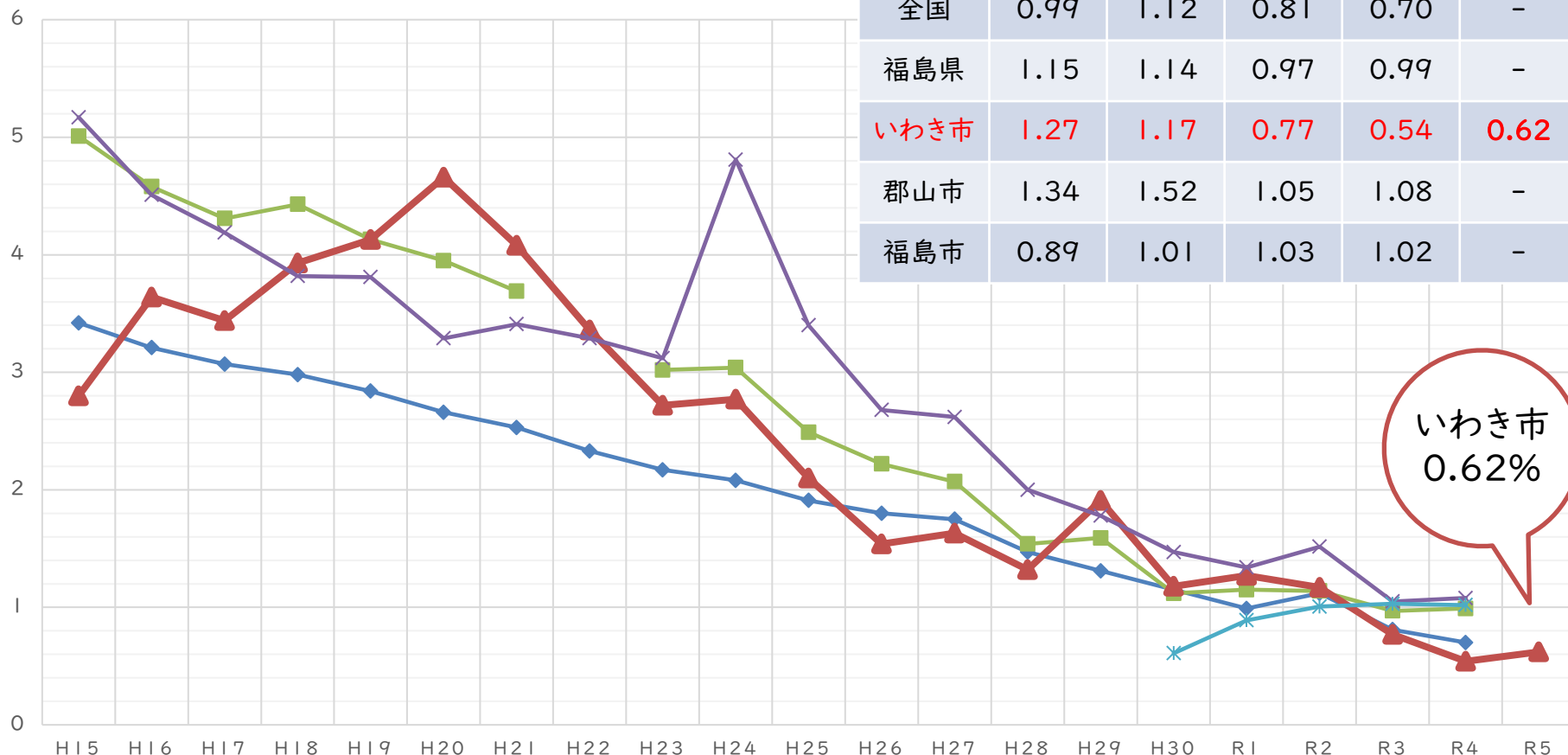




1歳6か月児 おし歯有病者率(%)



◆ 全国 ■ 福島県 ▲ いわき市 × 郡山市 * 福島市



いわき市
0.62%

いわき市の1歳6か月児「おし歯有病者率」は低下傾向にあり、
全国平均及び県平均と比較すると低い状況となっています。

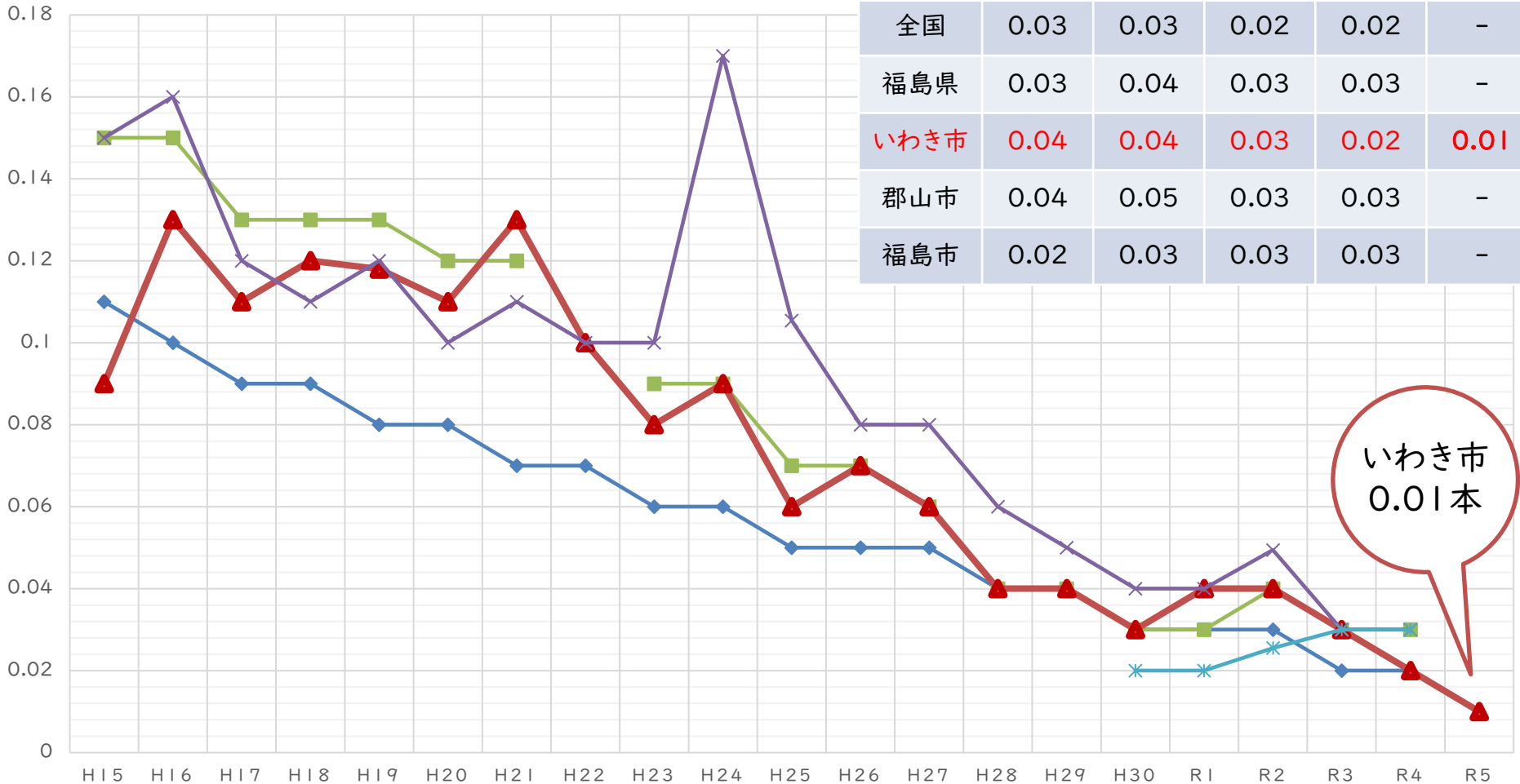


1歳6か月児 一人平均むし歯本数(本)



◆ 全国 ■ 福島県 ▲ いわき市 × 郡山市 * 福島市

(本)	R1	R2	R3	R4	R5
全国	0.03	0.03	0.02	0.02	-
福島県	0.03	0.04	0.03	0.03	-
いわき市	0.04	0.04	0.03	0.02	0.01
郡山市	0.04	0.05	0.03	0.03	-
福島市	0.02	0.03	0.03	0.03	-

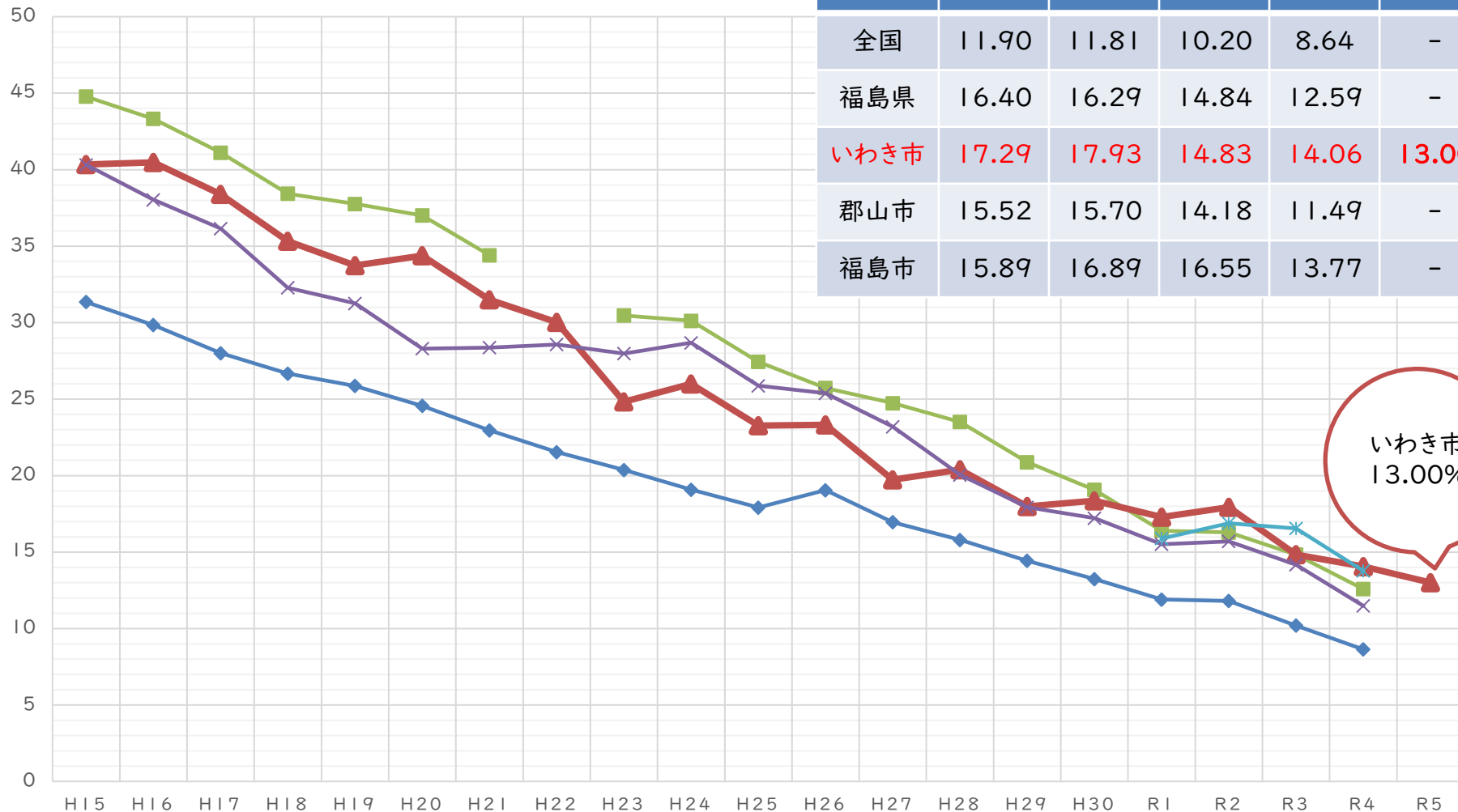


いわき市の1歳6か月児「一人平均むし歯本数」は低下傾向にあり、
全国平均と同じ水準となっています。

3歳児 むし歯有病者率(%)



◆ 全国 ■ 福島県 ▲ いわき市 × 郡山市 * 福島市



いわき市
13.00%

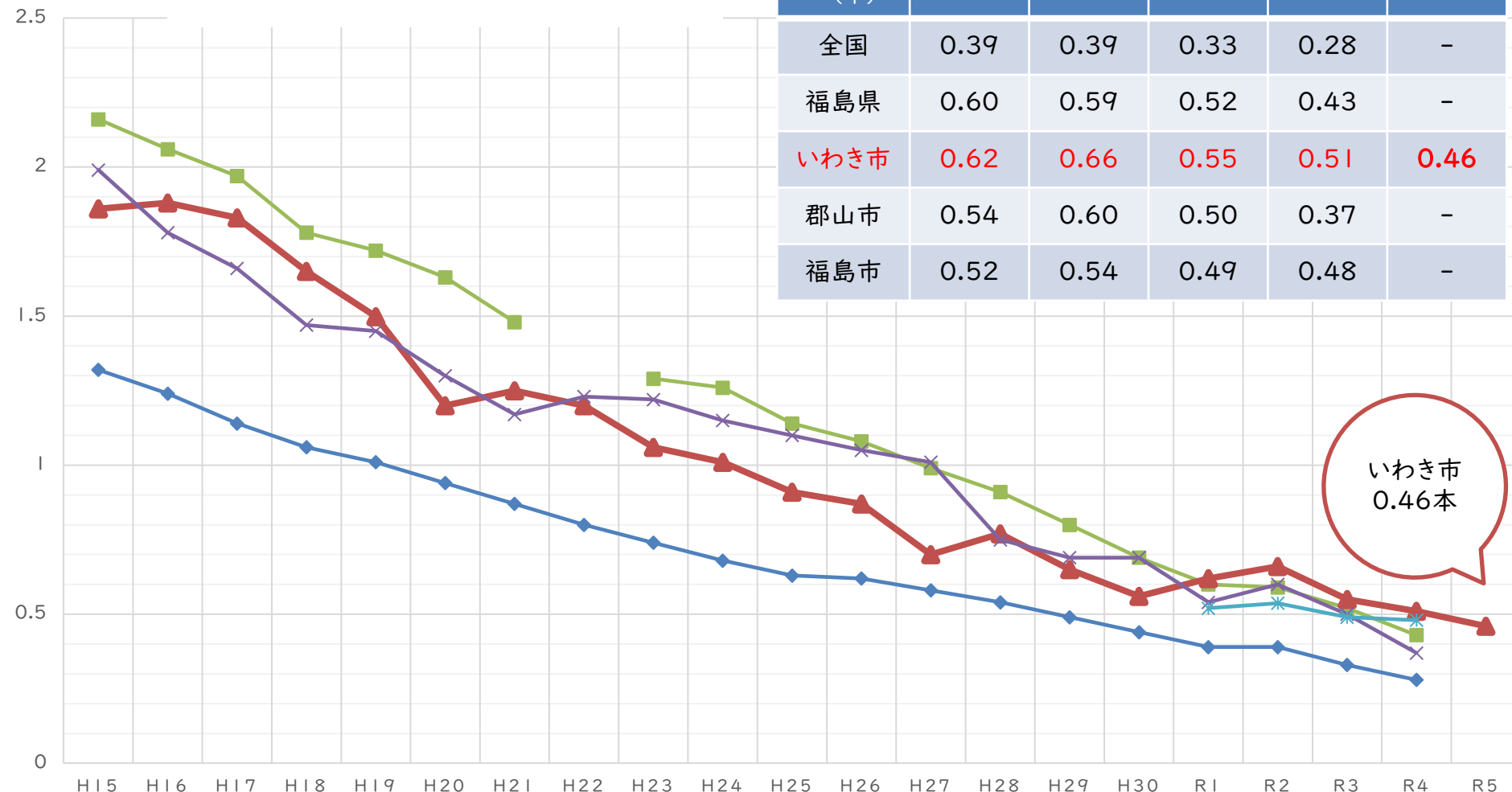
いわき市の3歳児「むし歯有病者率」は低下傾向にありますが、
全国平均及び県平均と比較すると依然として高い状況となっています。

3歳児 一人平均むし歯本数(本)



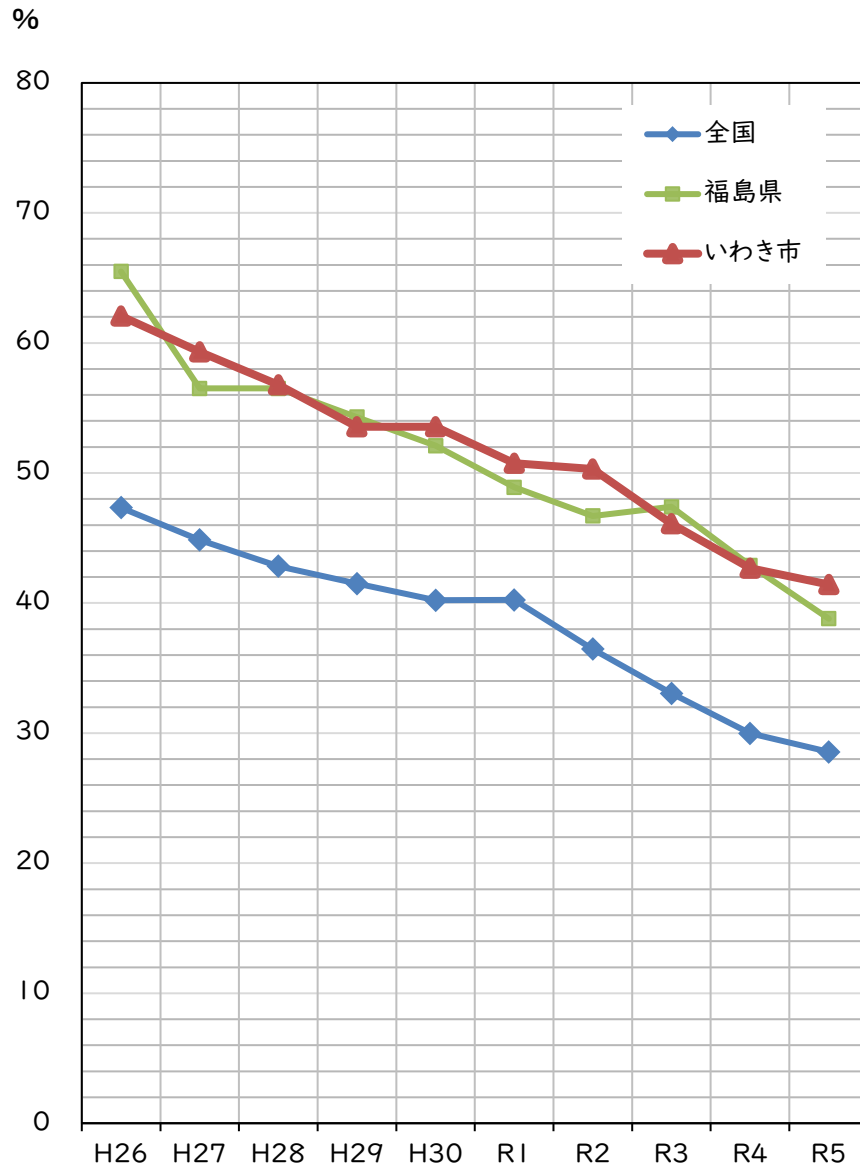
◆ 全国 ■ 福島県 ▲ いわき市 × 郡山市 * 福島市

(本)	R1	R2	R3	R4	R5
全国	0.39	0.39	0.33	0.28	-
福島県	0.60	0.59	0.52	0.43	-
いわき市	0.62	0.66	0.55	0.51	0.46
郡山市	0.54	0.60	0.50	0.37	-
福島市	0.52	0.54	0.49	0.48	-



いわき市の3歳児「一人平均むし歯本数」は低下傾向にありますが、全国平均及び県平均と比較すると依然として高い状況となっています。

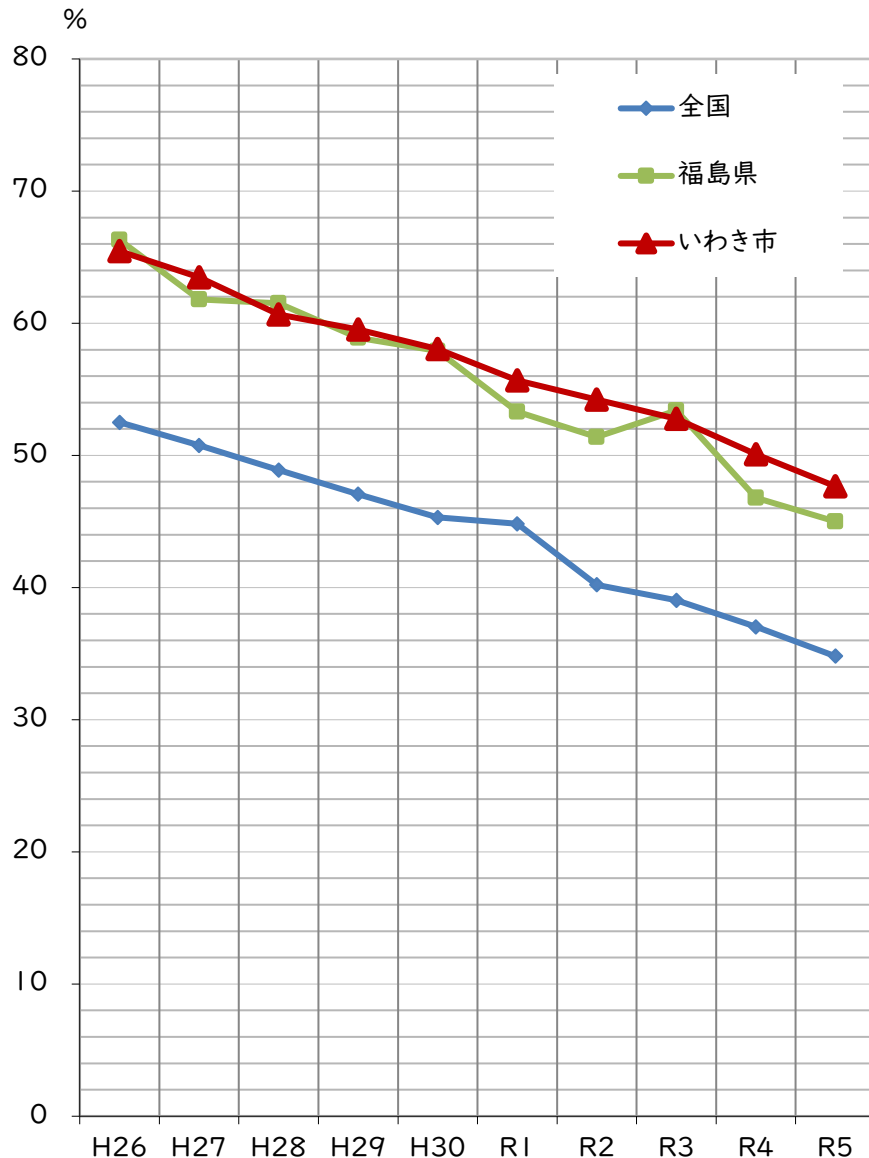
6歳児 おし歯有病者率(%)



(%)	R1	R2	R3	R4	R5
全国	40.24	36.46	33.05	29.98	28.55
福島県	48.9	46.7	47.4	42.9	38.8
いわき市	50.75	50.30	46.11	42.68	41.42

いわき市の6歳児「おし歯有病者率」は低下傾向にありますが、全国平均と比較すると依然として高い状況となっています。

小学校 むし歯有病者率(%)

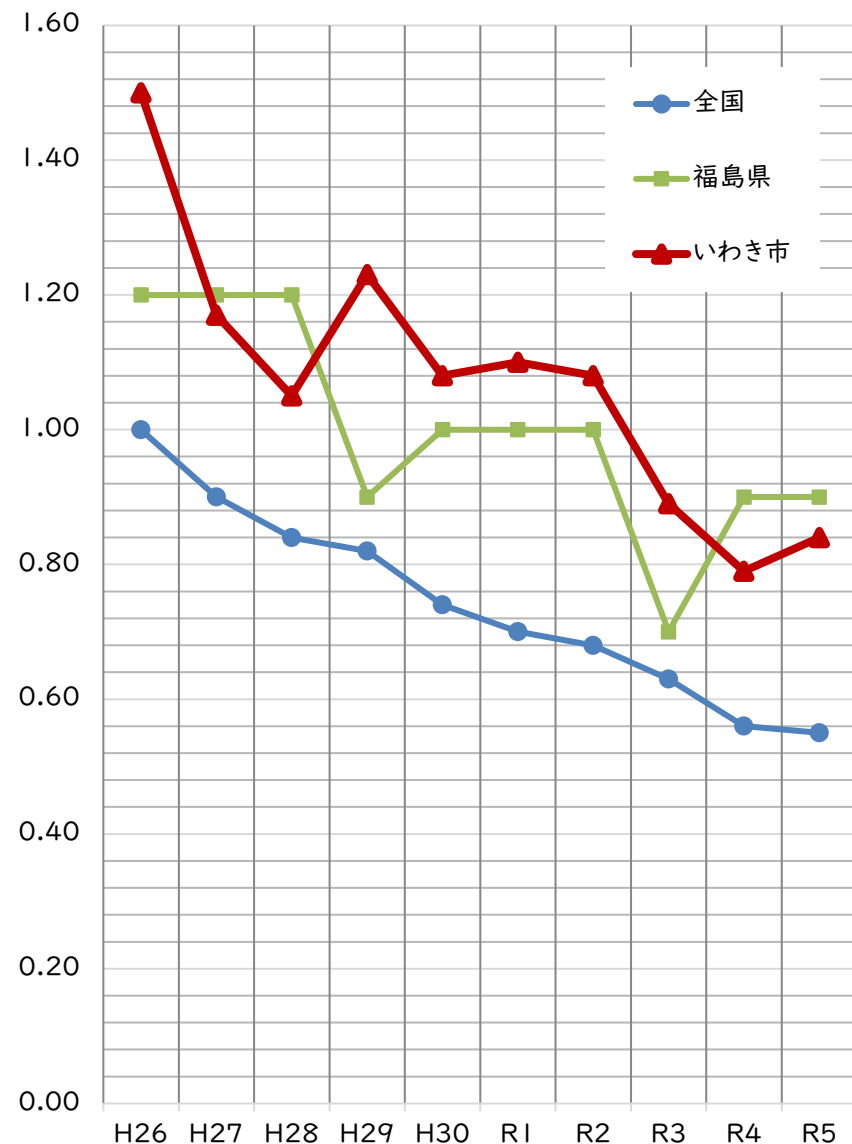


(%)	R1	R2	R3	R4	R5
全国	44.82	40.21	39.04	37.02	34.81
福島県	53.3	51.4	53.4	46.80	45.0
いわき市	55.67	54.23	52.78	50.09	47.66

小学生の「むし歯有病者率」は、年々低下傾向にありますが、全国平均及び県平均と比較すると依然として高い状況となっています。



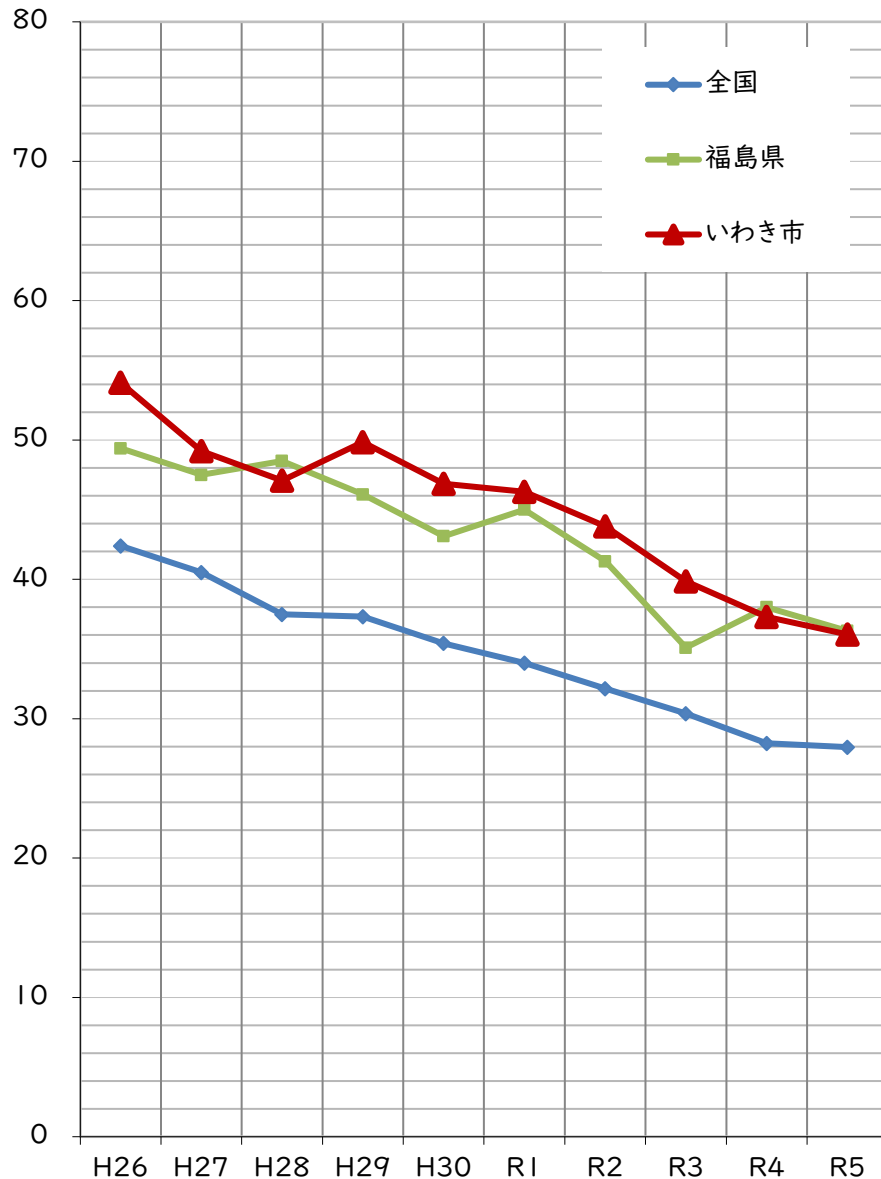
12歳児 永久歯の一人平均むし歯数(本)



(本)	R1	R2	R3	R4	R5
全国	0.70	0.68	0.63	0.56	0.55
福島県	1.0	1.0	0.7	0.9	0.9
いわき市	1.10	1.08	0.89	0.79	0.84

「永久歯一人平均むし歯数(12歳児)」は年々低下傾向にありますが、全国平均と比較すると本市の一人平均むし歯数は多い状況となっています。

中学校 むし歯有病者率(%)



(%)	R1	R2	R3	R4	R5
全国	34.00	32.16	30.37	28.23	27.95
福島県	45.0	41.3	35.1	38.00	36.3
いわき市	46.28	43.8	39.85	37.30	36.04

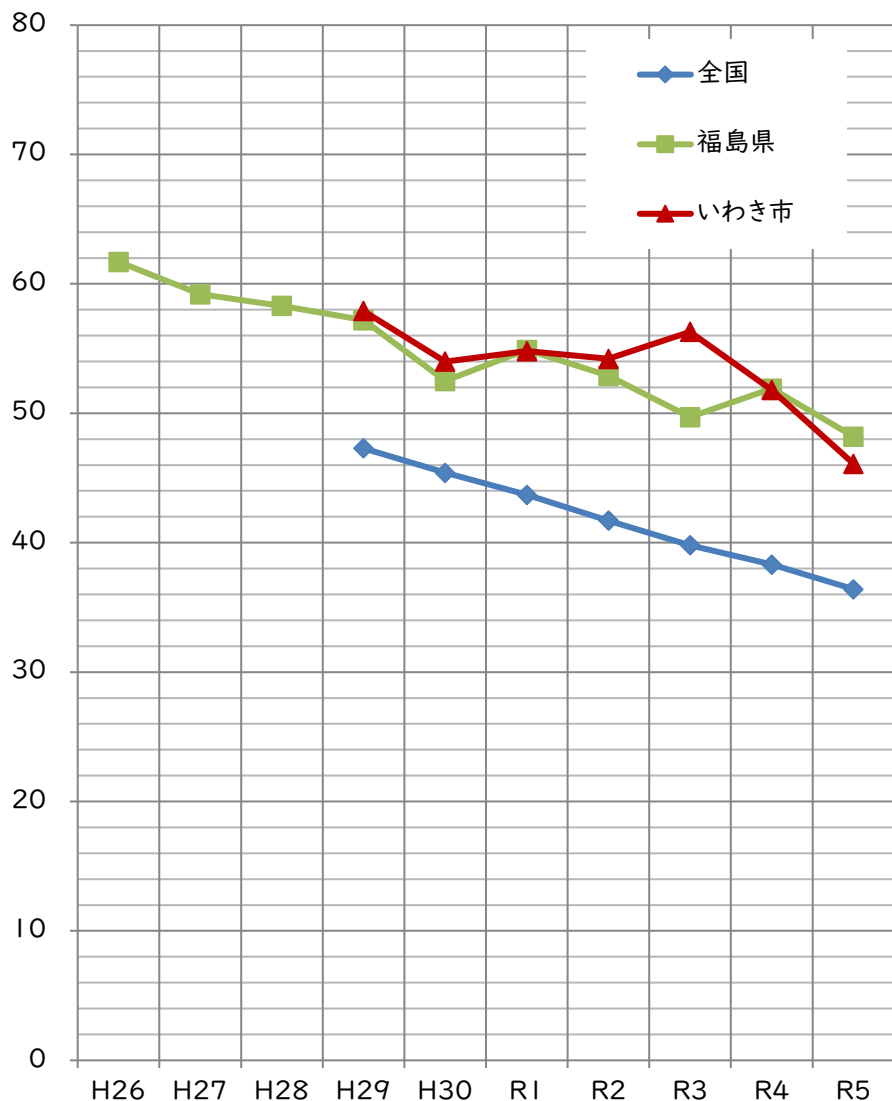
中学生の「むし歯有病者率」は、年々低下傾向にありますが、全国平均と比較すると依然として高い状況となっています。



高校生 むし歯有病者率(%)



%



(%)	R1	R2	R3	R4	R5
全国	43.7	41.7	39.8	38.3	36.38
福島県	54.9	52.9	49.7	51.9	48.2
いわき市	54.8	54.2	56.3	51.8	46.1

高校生の「むし歯有病率」は年々低下傾向にはありますが、全国平均と比較すると、本市のむし歯有病率は依然として高い状況となっています。

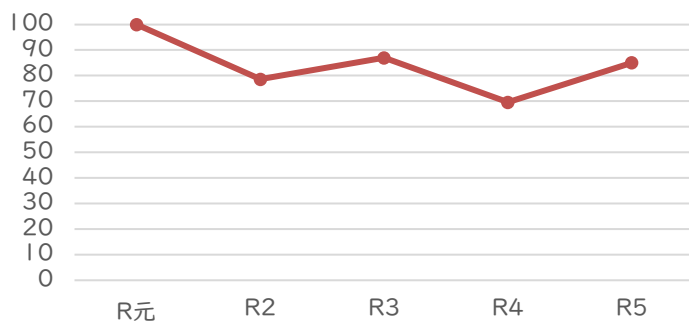


年代別歯の保有者の割合

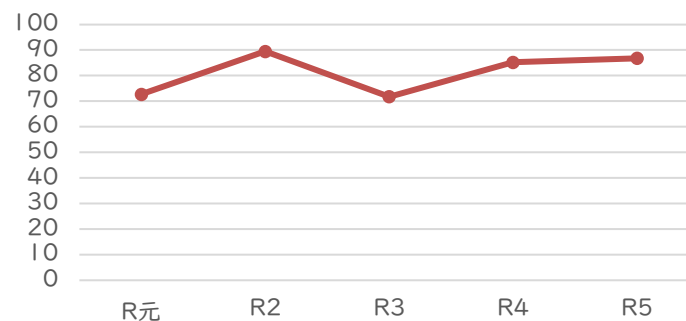
※「いわき市保健事業計画 歯周疾患検診実施状況」「福島県歯科保健情報システム集計結果（市町村実施分）」より引用
※R5については「令和5年度福島県歯科保健情報システム（市町村実施分）」へ健康づくり推進課が回答した数値（未公表）

	対象者数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	年代別歯の保有者の割合(%)	
				40歳代で 28歯以上	60歳代で 24歯以上
R1	6,305	49	0.8%	100.0%	72.7%
R2	6,607	82	1.2%	78.6%	89.5%
R3	17,342	146	0.8%	87.0%	71.8%
R4	17,562	187	1.1%	69.6%	85.2%
R5	14,921	140	0.9%	85.0%	86.8%

40歳代で28歯以上の者の割合



60歳代で24歯以上の者の割合



(2) 報告事項

令和5年度庁内各課の取り組み（健康いわき21（第三次）関連事業の評価）



(2) 令和5年度庁内各課の取り組み（健康いわき21（第三次）関連事業の評価）



① 概要

市歯科口腔保健協議部会設置要領第2条第1項（部会の協議・検討事項）「健康いわき21に係る施策の進捗状況の把握等に関する事」に基づき、報告するもの。

② 対象事業

- ・「健康いわき21（第三次）」記載の施策体系別関連事業（歯科分野計6事業）
- ・対象事業について、各担当課が事業評価を行い、効果検証を実施したもの。

③ 評価

「事業評価」と「方向性」の二つの視点で評価

事業評価

区分	評価基準
A	健康づくり事業の推進のため、事業目的は達成できている(数値で表すと75%以上)
B	健康づくり事業の推進のため、事業目的はほぼ達成できている(数値で表すと50～75%未満)
C	健康づくり事業の推進のため、事業目的はあまり達成できていない(数値で表すと25～50%未満)
D	健康づくり事業の推進のため、事業目的は達成できている(数値で表すと25%未満)
E	判定不能

事業の方向性

区分	評価基準
継続	継続事業、または内容の簡易な見直しを図った事業
手法の見直し	事業の抜本的見直しを図った事業
統合等の見直し	所属内の別事業との統合や別所属等へ移行を行った事業
廃止	令和5年度で廃止した事業
その他	理由を記載

(2) 令和5年度市内各課の取り組み(健康いわき21(第三次)関連事業の評価)



④ 評価結果

No.	事業名	担当課	事業評価(R6年度照会)				
			総合評価	有効性	必要性	効率性	事業の方向性
1	口腔・栄養ケア推進事業	保健所地域保健課	B	B	B	B	継続
2	地域歯科保健推進事業	保健所地域保健課	B	B	B	B	継続
3	歯と口の健康週間	保健所地域保健課	B	B	B	B	継続
		学校教育課	A	A	A	A	継続
4	フッ化物洗口事業	こども支援課	A	A	A	A	継続
		保健所地域保健課	A	A	A	A	継続
		学校教育課	C	C	B	B	手法の見直し
5	幼児むし歯予防対策事業	保健所地域保健課	A	A	A	A	継続
6	フレイル予防強化月間(2月)	地域包括ケア推進課	B	B	B	B	継続

	総合	有効性	必要性	効率性	事業の方向性	
評価区分	A	4	4	4	継続	8
	B	4	4	5	手法の見直し	1
	C	1	1	0	統合等の見直し	0
	D	—			廃止	0
	E	—			その他	0
	計	9	9	9		9

【総括】

- 全6事業の内、学校教育課のフッ化物洗口事業以外は、全て総合評価B以上、かつ今後の事業の方向性も継続と評価している。
- 学校教育課におけるフッ化物洗口事業については、モデル校4校の希望児童を対象に実施。今後、モデル校における効果検証等を踏まえながら、事業のあり方を検討、としている。

(3) 報告事項

令和6年度保健所地域保健課の取り組み



(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



歯ピカリ教室（乳幼児期）

乳児期は口腔清掃や食習慣などの基本的歯科保健習慣を身に付ける時期として非常に重要である。

そこで、保護者が子どもの歯・口腔に興味、関心が高まる時期をとらえ、10か月から11か月児とその保護者を対象に、健康教育「歯ピカリ教室」を実施し、むし歯予防の講話と仕上げみがきの実技について歯科衛生士が助言・指導を行う。

※R2～R5年度までは個別開催（3組/回）

R6年度より10組程度/回の小集団形式での開催としている。

年度	R2	R3	R4	R5	R6
開催回数	14	15	18	16	14
参加組数	44	44	46	36	75

周知方法

(R6.12月末現在)

市公式ホームページ、保健のしおり、母子モアアプリへの掲載
市事業（4か月児健診・母子健康相談・離乳食教室）、各地区保健福祉センター、図書館、公民館、地域子育て支援拠点施設（児童センターなど）におけるチラシ配布

R6年度チラシ

令和6年度

歯ピカリ教室

～かわいい歯をむし歯から守る～

歯ブラシでみがきスタート！

歯みがきをイヤがったらどうしよう？
歯みがきすればむし歯はできない？
正しい歯みがきや歯ブラシは丈夫？などについて、一緒に楽しく学んでみませんか？

● 対象 10か月から11か月の
お子さんとその保護者の方 ※10組程度
対象年齢以外でも、上下の歯が生えてきた時期のお子さん、参加は可です。

● 場所 総合保健福祉センター
1階 口腔保健室

● 費用 無料

● 内容

- むし歯予防のお話（歯みがき、おやつ、フッ化物など）
- 仕上げみがきの実技（歯科衛生士がアドバイスします）
- お口の中のむし歯菌量チェック（※希望者・保護者対象）

開催日								時間
4月23日	5月13日	5月29日	6月18日	7月5日	7月30日			10:00～ 11:30
8月20日	9月3日	9月25日	10月8日	10月28日	11月11日			
11月27日	12月10日	12月18日	1月31日	2月17日	3月18日			

● お願い

- 親子（母子）健康手帳、タオル、歯ブラシ（ご家庭で使っているもの）などお持ちください。
- 参加費・参加費は市内に居住する方を希望。
- お子様と保護者の方の体調を確認してください。体調不良時は参加を控えてください。

電話、ウェブ受付または窓口にて申し込みを受け付けています。

申し込み・お問い合わせ

いわき市保健所 地域保健課

TEL 0246(27)8594

申し込み・お問い合わせ

いわき市 歯ピカリ

QRコードよりアクセスして申し込みください。



(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



乳幼児健診におけるフッ化物塗布（乳幼児期）

母子保健法に基づく、1歳6か月児健康診査及び3歳児健康診査における
歯科健診にあわせて、むし歯予防のためのフッ化物塗布及びブラッシング等
歯科保健指導を実施し、むし歯の予防及び保護者の意識啓発を図る。



(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



乳幼児健診におけるフッ化物塗布（乳幼児期）

【1歳6か月児健康診査】

年度	回数	対象者数	受診者数①	塗布人数②	実施率 ②/①×100
R2	75	2,117	2,054	1,952	95.0%
R3	74	2,044	1,946	1,842	94.7%
R4	73	1,918	1,842	1,745	94.7%
R5	70	1,837	1,784	1,668	93.5%
R6	49	-	1,285	1,210	93.9%

(R6.12月末現在)

※R5年度のフッ化物塗布未実施の児のうち、
歯科医院で塗っている・塗る予定・治療している割合は、全体の**57.4%**
その他塗らない理由：泣いてしまう、時間が無い など。

(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



乳幼児健診におけるフッ化物塗布（乳幼児期）

【3歳児健康診査】

年度	回数	対象者数	受診者数①	塗布人数②	実施率 ②/①×100
R2	78	2,357	2,270	2,008	88.5%
R3	81	2,313	2,171	1,803	83.0%
R4	80	2,087	2,006	1,667	83.1%
R5	77	2,074	1,994	1,666	83.6%
R6	50	－	1,311	1,098	84.4%

(R6.12月末現在)

※R5年度のフッ化物塗布未実施の児のうち、
歯科医院で塗っている・塗る予定・治療している割合は、全体の**82.1%**

(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



フッ化物洗口事業（乳幼児期・学童期）

私立の就学前施設（保育所・幼稚園・認定こども園等）の
4歳以上の幼児及び小学校の児童を対象に、
集団で低濃度のフッ化物洗口液でうがいをすることで、
むし歯の予防を図り、生涯を通じた歯と口腔の健康づくりを進める。



(3) 令和6年度保健所健所地域保健課の取り組み



フッ化物洗口事業（乳幼児期・学童期）

実施施設数（令和6年10月末現在）

	就学前施設		小学校	
	私立	公立	私立	公立
施設数	62	40	1	59
実施施設数	22	40	1	4
実施率	35.5%	100.0%	100.0%	6.8%
担当課	地域保健課	こども支援課	地域保健課	学校教育課

実施者数（令和5年5月1日現在）

	就学前施設		小学校	
	私立	公立	私立	公立
対象者数	5,036		39	15,439
実施者数	1,499	1,076	35	213
実施率	51.1%		1.6%	



(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



歯科健康教育（乳幼児期・学童期・青年期）

○本市の学校、施設及び地域へ歯科衛生士が出向き、健康教育を行う。（計740名実施）

（R6.12月末現在）

種類	日程	場所	対象	内容
健康教育	6/4（火）	四倉保育所	親子46組92名 年少・年中・年長児とその保護者等	「歯みがき指導（親子）」
健康教育	6/7（金）	小名浜市民会館	0～3歳児の保護者11名 （児は託児）	「かわいい歯を大切に」
健康教育	6/12（水）	植田保育園	歯科講話:52名(3.4.5歳児) 歯みがき指導:18名(5歳児)	「食と歯の健康について」
健康教育	6/14（金）	汐見ヶ丘幼稚園	19名 （幼稚園児:9名、保護者:10名）	「歯みがきの大切さ」
健康教育	6/19（水）	御厩小学校	54名 （1組26名.2組23名.支援学級2名 クラス担任2名.養護教諭1名）	「むし歯になりにくいおやつを さがそう」
健康教育	6/26（水）	カンガルー広場	0～3歳児の保護者10名 （児は託児）	「かわいい歯を大切に」
健康教育	7/4（木）	エデンの家	6名 （2～5歳児の保護者4名、職員2名）	「かわいい歯を大切に」
健康教育	7/11（木）	内郷第三中学校	30名 （1～3年生24名、職員6名）	「歯と口からの健康づくり」
出前講座	8/22（木）	久之浜ふれあい館	7名:高齢者(中町ふれあい協議会)	「歯と口からの健康づくり」
健康教育	9/17（火）	NPOこみゅーん	6名:成人(ホームビジター)	「妊娠期から幼児期の 歯と口からの健康づくり」
健康教育	9/27（金）	勿来市民会館	1歳前後の児の保護者7名(児8名)	「かわいい歯を大切に」
健康教育	10/18（金） 10/30（水）	平支援学校 平支援学校（寄宿舍）	小学部1年5名、保護者4名、教職員7名 寄宿舍生10名、教職員12名	「6歳臼歯や仕上げ磨きの大切さ」 「磨き方のコツを覚えよう」
健康教育	10/11（金） 10/15（火） 12/11（水）	平商業高等学校	1学年 117名 2学年 128名 3学年 145名	「歯科指導」

(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



歯とお口の健康相談（青年期から壮年期）

健康増進法に基づき、歯科疾患の予防について、正しい知識の普及を図ることにより「自らの健康は自ら守る」という認識と自覚を高め主に壮年期（40歳から64歳まで）の歯と口腔の健康の保持・増進を目的として健康相談を行う。

年度	R2	R3	R4	R5	R6
開催回数	1	0	2	0	2
参加者数	1	0	4	0	4

(R6.12月末現在)

周知方法

市公式ホームページ、保健のしおり、HELPOアプリ、月刊タウンマガジンいわきへの掲載
各地区保健福祉センター、図書館、公民館等におけるチラシ配布

R6年度チラシ

令和6年度

忙しくて歯医者さんへ行けていないアナタ...
歯科衛生士による

歯とお口の健康相談

こんなことはありませんか？

1つでもあてはまれば
歯周病予備軍かも！

歯とお口の健康 セルフチェック

- ☐ 起きた時に 口の中がネバネバする
- ☐ 歯みがきの時に出血する
- ☐ 口臭が気になる
- ☐ 歯肉がときどき 腫れたり痛む
- ☐ 歯と歯の間によく食べ物がはさまる

歯科衛生士にご相談ください。

Brush

歯ブラシのあて方

Item

歯間ブラシの使い方
(セルフケア)

Health

歯周病予防について

※歯科医療行為（むし歯治療や歯石除去等）は行いません

対 象 歯やお口のことについて相談のある方（おおむね20～64歳の方）

場 所 総合保健福祉センター 1階 口腔保健室

開 催 日			時 間
5月10日(金)	7月8日(月)	9月18日(水)	①9:00～ ②9:45～ ③10:30～ ④11:15～ (1人30分程度)
11月15日(金)	令和7年 1月28日(火)	3月10日(月)	

※予約制となっておりますので、事前にお電話でお申し込みください。
※上記以外の日時でも随時相談をお受けしますので、下記までお問い合わせください。

問い合わせ申し込み先

いわき市保健所 地域保健課 0246(27)8594

めざそう
8020

(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



訪問口腔指導（全世代）

歯科衛生士や栄養士が、療養上保健指導が必要であると認められている者及びその家族等を対象に訪問等を行い、口腔内・栄養状態を調査し、本人及びその家族等へ適切な指導・助言を行うことで、咀嚼機能の維持・向上及び栄養改善を図る。

【訪問実人数/延べ人数】

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
訪問口腔指導 (延人数)	27	3	3	6	2

(R6.12月末現在)

(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み



来所・電話相談（全世代）

電話または来所にて随時対応。

障がい児（者）からの歯科相談についても、関係機関と情報を共有し対応している。

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
電話	48	23	40	34	27
来所	9	4	2	4	2
合計	57	27	42	38	29

（R6.12月末現在）

相談内容

電話：歯科治療について

歯周疾患検診について

子どもの口腔ケアについて

8020認定証について 等

来所：認知症の母の口腔ケアについて

(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み(普及啓発)



①歯と口の健康週間（毎年6月4日から6月10日）

「歯と口の健康まつり」（市歯科医師会主催 市共催事業）

日時：令和6年6月9日（日）11：30～15：00

場所：総合保健福祉センター

来場者数：300人（いわき市歯科医師会調べ）



	参加者数	内容
歯科ブース	143人	「たのしい!くちあそびチャレンジ“ストローさかなつり”」 パンフレット、歯ブラシ等啓発グッズの配布 歯科相談の実施
栄養ブース	115人	「知ってる?試してみよう!甘いジュースの糖分量」体験 おやつのフードモデルの展示 栄養相談の実施

体験コーナーでは“くちあそび”として『ストローさかなつり』をゲーム形式で実施。新型コロナウイルス感染拡大以降、マスク着用や飛沫感染への配慮から子どもたちの生活様式や環境にも多くの変化があったが、従来の生活へと戻りつつある中、遊びのなかから自然と口遊びを楽しみ、口腔機能を高める機会となった。

(3) 令和6年度保健所地域保健課の取り組み(普及啓発)



②健康相談会・測定会 (市健康づくり推進課主催「からだの見える測定会」)

市民に対する健康への認知度を高めるとともに、市民がより生き生きと充実した生活を送れるように、各種測定器による測定会及び、歯科相談を行い、歯科・口腔ケア等に関する情報提供を実施。
歯科は咀嚼力チェックガムによる咀嚼力テストを実施

日程	場所	人数
6月18日(火)	マルト尼子店	90名
6月25日(火)	イオンモールいわき小名浜	80名
7月31日(水) 8月 7日(水) 8月21日(水)	市内事業所	113名 従業員全員及び 協力会社従業員のうち希望者
9月10日(火)	マルト高坂店	74名



4 意見交換

フッ化物洗口事業の効果検証について



(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



① 本市におけるフッ化物洗口事業の基本的な考え方

本市では、「市歯と口の健康づくり推進条例」（平成28年4月施行）において、乳児期、幼児期及び学齢期でのフッ化物の応用等によるむし歯の予防方法の推進を、市が実施する基本的施策として定めている。

【参考：国県の考え方】

国：「小児期は、むし歯予防や健康格差の縮小の観点から、集団でのフッ化物洗口を施設等で実施することが望ましい」（令和4年12月28日厚労省通知／フッ化物洗口の推進に関する基本的な考え方）

県：「幼・保・小学校での集団でのフッ化物洗口の普及啓発」を施策の方向性として規定（県歯科保健計画）

② フッ化物洗口事業実施状況

上記の基本的施策を踏まえ、本市では、こどもの歯と口腔の健康づくりを推進するため、平成29年度から、就学前施設や小学校での「フッ化物洗口事業」を実施している。

実施施設数（令和6年10月末現在）

	就学前施設		小学校	
	私立	公立	私立	公立
施設数	62	40	1	59
実施施設数	22	40	1	4
実施率	35.5%	100.0%	100.0%	6.8%
担当課	地域保健課	こども支援課	地域保健課	学校教育課

実施者数（令和5年5月1日現在）

	就学前施設		小学校	
	私立	公立	私立	公立
対象者数	5,036		39	15,439
実施者数	1,499	1,076	35	213
実施率	51.1%		1.6%	

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



③ 効果検証を行う背景

- ・ 「福島県フッ化物洗口応用マニュアル」において、フッ化物洗口の予防効果は実施後、数年経過すると現れるとし、効果が明瞭に現れるのは通常、小学5～6年生以降としている。
- ・ フッ化物洗口を実施している公立小学校（モデル4校）の6年生については、令和5年度末をもって、1校が6年間・3校が5年間、それぞれ継続実施した状況にあり、効果検証の時期を迎えているものと考えられる。
（学校教育課におけるフッ化物洗口事業の評価として、「モデル校における効果検証等を踏まえながら事業のあり方を検討」としている）
- ・ 今後、市内の未実施施設等に対し、モデル4校での事業効果を提示することで、事業拡大に繋がることが期待される。

このようなことを踏まえ、次のとおり、フッ化物洗口事業の効果検証を行ったもの。

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



評価時期

3-2-2 フッ化物洗口による予防効果はどのように評価すればよいですか。

答え ①評価の時期

フッ化物洗口の予防効果は実施後、数年を経過すると現れます。例えば、**小学校入学時から開始した場合、効果が明瞭に現れるのは通常、小学校5～6年生以降になります。**

②比較の年齢

むし歯は元に戻らない病気のため、年齢（学年）とともに増加します。異なる年齢で比較すると、見かけ上むし歯になる時期が遅れただけと見えることがあるため、むし歯の予防効果を比較するためには、同一年齢児で比較します。フッ化物洗口を実施すると確実にこの同一年齢の間で差がでてきます。

③確認の方法

フッ化物洗口を実施している学校で、そのむし歯予防効果を知るためには、一人平均むし歯数（DMFT）や、むし歯を持っている子供の割合（むし歯有病率）を、フッ化物洗口を実施していない学校と比較する方法（未実施校との比較）が一般的です。この時も同一学年（年齢）で比較することが大切です。また、フッ化物洗口を実施する前からのむし歯の増加量で比較することで、より詳細に比較することができます。（3-2-1 参照）

算出（評価）方法

算出方法

$$\text{むし歯予防率} = \frac{\text{フッ化物洗口未実施校の数値} - \text{フッ化物洗口の実施校の数値}}{\text{フッ化物洗口未実施校の数値}} \times 100 (\%)$$

例 平成27年度 伊達市小学校6年生の永久歯の例

	受診者数	むし歯有病者数	むし歯総本数	むし歯有病率	一人平均むし歯数
フッ化物洗口未実施校	304人	122人	285本	40.13%	0.94本
フッ化物洗口実施校	243人	52人	92本	21.40%	0.38本

例 平成23年度 伊達市小学校2年生の永久歯の例

	受診者数	むし歯有病者数	むし歯総本数	むし歯有病率	一人平均むし歯数
フッ化物洗口未実施校	311人	35人	57本	11.25%	0.18本
フッ化物洗口実施校	247人	25人	30本	10.12%	0.12本

●単年度の比較

※むし歯有病者率の評価

$$\text{むし歯予防率} = \frac{40.13 - 21.40}{40.13} \times 100 = 46.7 (\%)$$

※一人平均むし歯数の評価

$$\text{むし歯予防率} = \frac{0.94 - 0.38}{0.94} \times 100 = 59.6 (\%)$$

●フッ化物洗口実施前からのむし歯の増加量で比較

※むし歯有病者率の評価

$$\text{むし歯予防率} = \frac{(40.13 - 11.25) - (21.40 - 10.12)}{(40.13 - 11.25)} \times 100 = 60.9 (\%)$$

※一人平均むし歯数の評価

$$\text{むし歯予防率} = \frac{(0.94 - 0.18) - (0.38 - 0.12)}{(0.94 - 0.18)} \times 100 = 65.8 (\%)$$

なお、むし歯予防効果が認められない場合は、次の点を確認してみましょう。

例

※フッ化物洗口が正しく行われているか。

実施していない子供がいなかったか、洗口を休んだ回数が多くなかったか、洗口後30分間は飲食しないことが徹底されているか、についてもチェックする必要があります。

※フッ化物洗口の希望者率

希望者率が少ない施設では期待通りの予防効果は望みにくくなります。

※生徒数

生徒数が少ないと個人の影響が大きくなります。例えば、むし歯を極端に多く持っている子供達がいると、その子供達のむし歯数が全体のむし歯数に大きく影響し、効果が不明瞭になる場合があります。

※健診する先生と健診精度

健診する先生が変わった場合、健診の基準が異なることがあります。

※健診時期

例えば春の健診、秋の健診等、時期が同じでないと比較できません。

チェックすべき点は様々挙げられますので、詳しくは学校歯科医や関係機関に相談してください。

福島県フッ化物応用マニュアル一部抜粋

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



④ 効果検証の方法

福島県フッ化物応用マニュアルに基づき、フッ化物洗口実施校と未実施校（生活圏に近い近接校）における、永久歯の有病者率や一人平均むし歯本数をそれぞれ比較し、予防率を算出。

$$\text{むし歯予防率} = (\text{フッ化物洗口未実施校の数値} - \text{フッ化物洗口事業実施校の数値}) / \text{フッ化物洗口未実施校の数値} \times 100\%$$

洗口実施校：渡辺小（平成29年度から洗口開始）

渡辺小	学年	受診者数			永久歯											
					むし歯有病者数			有病者率(%)			むし歯総本数			一人平均むし歯数		
歯科健診実施年度		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成30年度	1年生	6	6	12	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
令和5年度	6年生	4	4	8	1	1	2	25.0	25.0	25.0	1	1	2	0.25	0.25	0.25

洗口未実施校：泉小

泉小	学年	受診者数			永久歯											
					むし歯有病者数			有病者率(%)			むし歯総本数			一人平均むし歯数		
歯科健診実施年度		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成30年度	1年生	82	69	151	4	2	6	4.9	2.9	4.0	4	5	9	0.05	0.07	0.06
令和5年度	6年生	77	68	145	16	19	35	20.8	27.9	24.1	23	35	58	0.30	0.51	0.40

単年度の比較（実施校・未実施校の6年生を比較）

表中の数値は学校歯科健康診査結果集約表より抜粋（以下、同じ）

- ・有病者率 $24.10 - 25.00 / 24.10 \times 100 = -3.73\%$
- ・一人平均むし歯本数 $0.40 - 0.25 / 0.40 \times 100 = 37.50\%$

増加量での比較（実施校と未実施校の洗口開始前後、1年生と6年生を比較）

- ・有病者率 $(24.10 - 4.00) - (25.00 - 0.00) / (24.10 - 4.00) \times 100 = -24.38\%$
- ・一人平均むし歯本数 $(0.40 - 0.06) - (0.25 - 0.00) / (0.40 - 0.06) \times 100 = 26.47\%$

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



④ 効果検証の方法

福島県フッ化物応用マニュアルに基づき、フッ化物洗口実施校と未実施校（生活圏が近い近接校）における、永久歯の有病者率や一人平均むし歯本数をそれぞれ比較し、予防率を算出。

$$\text{むし歯予防率} = (\text{フッ化物洗口未実施校の数値} - \text{フッ化物洗口事業実施校の数値}) / \text{フッ化物洗口未実施校の数値} \times 100\%$$

洗口実施校：夏井小（平成31年度から洗口開始）

夏井小	学年	受診者数			永久歯											
					むし歯有病者数			有病者率(%)			むし歯総本数			一人平均むし歯数		
歯科健診実施年度		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成30年度	1年生	8	9	17	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
令和5年度	6年生	6	9	15	2	1	3	33.3	11.1	20.0	7	4	11	1.17	0.44	0.73

洗口未実施校：高久小

高久小	学年	受診者数			永久歯											
					むし歯有病者数			有病者率(%)			むし歯総本数			一人平均むし歯数		
歯科健診実施年度		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成30年度	1年生	8	14	22	0	3	3	0.0	21.4	13.6	0	4	4	0.00	0.29	0.18
令和5年度	6年生	8	13	21	2	7	9	25.0	53.8	42.9	4	14	18	0.50	1.08	0.86

単年度の比較（実施校・未実施校の6年生を比較）

・有病者率 $42.90 - 20.00 / 42.90 \times 100 = 53.38\%$

・一人平均むし歯本数 $0.86 - 0.73 / 0.86 \times 100 = 15.12\%$

増加量での比較（実施校と未実施校の洗口開始前後、1年生と6年生を比較）

・有病者率 $(42.90 - 13.60) - (20.00 - 0.00) / (42.90 - 13.60) \times 100 = 31.74\%$

・一人平均むし歯本数 $(0.86 - 0.18) - (0.73 - 0.00) / (0.86 - 0.18) \times 100 = -7.35\%$

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



④ 効果検証の方法

福島県フッ化物応用マニュアルに基づき、フッ化物洗口実施校と未実施校（生活圏が近い近接校）における、永久歯の有病者率や一人平均むし歯本数をそれぞれ比較し、予防率を算出。

$$\text{むし歯予防率} = (\text{フッ化物洗口未実施校の数値} - \text{フッ化物洗口事業実施校の数値}) / \text{フッ化物洗口未実施校の数値} \times 100\%$$

洗口実施校：好間四小（平成31年度から洗口開始）

好間四小	学年	受診者数			永久歯											
					むし歯有病者数			有病者率(%)			むし歯総本数			一人平均むし歯数		
歯科健診実施年度		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成30年度	1年生	3	3	6	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
令和5年度	6年生	3	3	6	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.00	0.00	0.00

洗口未実施校：高野小

高野小	学年	受診者数			永久歯											
					むし歯有病者数			有病者率(%)			むし歯総本数			一人平均むし歯数		
歯科健診実施年度		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成30年度	1年生	2	4	6	0	1	1	0.0	25.0	16.7	0	2	2	0.00	0.50	0.33
令和5年度	6年生	2	4	6	2	0	2	100.0	0.0	33.3	3	0	3	1.50	0.00	0.50

単年度の比較（実施校・未実施校の6年生を比較）

・有病者率 $33.30 - 0.00 / 33.30 \times 100 = 100.00\%$

・一人平均むし歯本数 $0.50 - 0.00 / 0.50 \times 100 = 100.00\%$

増加量での比較（実施校と未実施校の洗口開始前後、1年生と6年生を比較）

・有病者率 $(33.30 - 16.70) - (0.00 - 0.00) / (33.30 - 16.70) \times 100 = 100.00\%$

・一人平均むし歯本数 $(0.50 - 0.33) - (0.00 - 0.00) / (0.50 - 0.33) \times 100 = 100.00\%$

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



④ 効果検証の方法

福島県フッ化物応用マニュアルに基づき、フッ化物洗口実施校と未実施校（生活圏に近い近接校）における、永久歯の有病者率や一人平均むし歯本数をそれぞれ比較し、予防率を算出。

$$\text{むし歯予防率} = (\text{フッ化物洗口未実施校の数値} - \text{フッ化物洗口事業実施校の数値}) / \text{フッ化物洗口未実施校の数値} \times 100\%$$

洗口実施校：勿来三小（平成31年度から洗口開始）

勿来三小	学年	受診者数			永久歯											
					むし歯有病者数			有病者率(%)			むし歯総本数			一人平均むし歯数		
歯科健診実施年度		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成30年度	1年生	5	2	7	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
令和5年度	6年生	3	2	5	2	1	3	66.7	50.0	60.0	4	3	7	1.33	1.50	1.40

洗口未実施校：勿来一小

勿来一小	学年	受診者数			永久歯											
					むし歯有病者数			有病者率(%)			むし歯総本数			一人平均むし歯数		
歯科健診実施年度		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
平成30年度	1年生	26	29	55	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0	0	0	0.00	0.00	0.00
令和5年度	6年生	24	26	50	12	15	27	50.0	57.7	54.0	25	30	55	1.04	1.15	1.10

単年度の比較（実施校・未実施校の6年生を比較）

- ・有病者率 $54.00 - 60.00 / 54.00 \times 100 = -11.11\%$
- ・一人平均むし歯本数 $1.10 - 1.40 / 1.10 \times 100 = -27.27\%$

増加量での比較（実施校と未実施校の洗口開始前後、1年生と6年生を比較）

- ・有病者率 $(54.00 - 0.00) - (60.00 - 0.00) / (54.00 - 0.00) \times 100 = -11.11\%$
- ・一人平均むし歯本数 $(1.10 - 0.00) - (1.40 - 0.00) / (1.10 - 0.00) \times 100 = -27.27\%$

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



⑤ 検証結果まとめ

むし歯予防率		近接校比較			
		渡辺小	夏井小	好間四小	勿来三小
単年度	有病者率	△3.73%	53.38%	100.00%	△11.11%
	一人平均むし歯数	37.50%	15.12%	100.00%	△27.27%
増加量	有病者率	△24.38%	31.74%	100.00%	△11.11%
	一人平均むし歯数	26.47%	△7.35%	100.00%	△27.27%

【総括】

・単年度比較

有病者率を用いたむし歯予防率は、夏井小が53.38%、好間四小が100.00%であった。
一人平均むし歯数を用いたむし歯予防率は、渡辺小が37.50%、夏井小が15.12%、
好間四小が100.00%であった。

・増加量比較

有病者率を用いたむし歯予防率は、夏井小が31.74%、好間四小が100.00%であった。
一人平均むし歯数を用いたむし歯予防率は、渡辺小が26.47%、好間四小が100.00%であった。

※ ただし、モデル校の児童数が少ないため、個人のむし歯本数が算出結果に影響し、マイナスの値も算出されるなど、統計学的な有意差については確認できないことから、今後も定期的に検証し、注視していく必要がある。

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



⑤ 検証結果まとめ（参考：モデル4校を除く市内全校合計との比較）

むし歯予防率		市内全校比較（モデル4校除く）			
		渡辺小	夏井小	好間四小	勿来三小
単年度	有病者率	5.30%	24.24%	100.00%	△127.27%
	一人平均むし歯本数	58.33%	△21.67%	100.00%	△133.33%
増加量	有病者率	△8.23%	13.42%	100.00%	△159.74%
	一人平均むし歯本数	54.55%	△32.73%	100.00%	△154.55%

【総括】

・単年度比較

有病者率を用いたむし歯予防率は、渡辺小が5.30%、夏井小が24.24%、好間四小が100.00%であった。

一人平均むし歯数を用いたむし歯予防率は、渡辺小が58.33%、好間四小が100.00%であった。

・増加量比較

有病者率を用いたむし歯予防率は、夏井小が13.42%、好間四小が100.00%であった。

一人平均むし歯数を用いたむし歯予防率は、渡辺小が54.55%、好間四小が100.00%であった。

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



⑥ 一人平均むし歯本数による比較

効果検証の方法について参考とするため、他市等照会した結果、「12歳児の永久歯の一人平均むし歯本数」により評価している自治体もあったことから、同様に次のとおり比較したもの。

市全体	洗口未実施校（近接校）	洗口実施校
0.62本	泉小 0.4本	渡辺小 0.25本
	高久小 0.86本	夏井小 0.73本
	高野小 0.5本	好間四小 0.00本
	勿来一小 1.1本	勿来三小 1.4本

【出典】

- ・市全体は令和5年度学校保健統計（11歳児）
- ・近接校、モデル校は令和5年度学校歯科健康診査結果集約表（6年生）

【総括】

一人平均むし歯本数について、フッ化物洗口実施校の内、2校は市全体の平均値を下回っている。

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



参考：他市の状況

○趣旨

フッ化物洗口事業の効果検証にあたり、他市の状況を参考とするため、次のとおり調査したもの。

1 調査対象

保健所政令市の内、中核市61・その他政令市5 計66市（本市除く）

2 調査期間

令和6年9月

（10月27日開催の全国保健所長会政令市部会総会の議題として提案・調査）

3 調査内容

- ① フッ化物洗口実施状況（就学前施設・小学校・中学校）
- ② フッ化物洗口実施施設または、実施校における評価時期について
- ③ 幼児期から学齢期までフッ化物洗口を継続実施した学校における効果の評価方法

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について

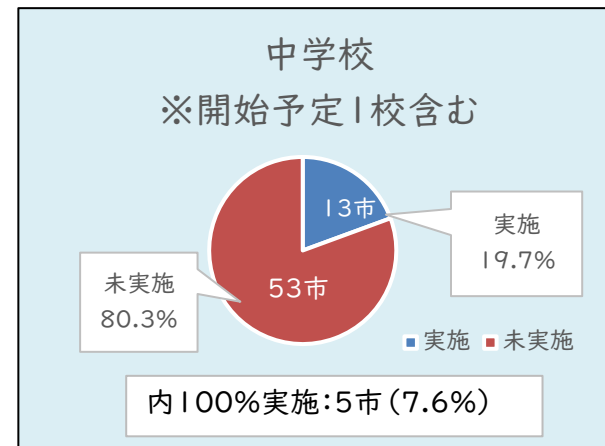
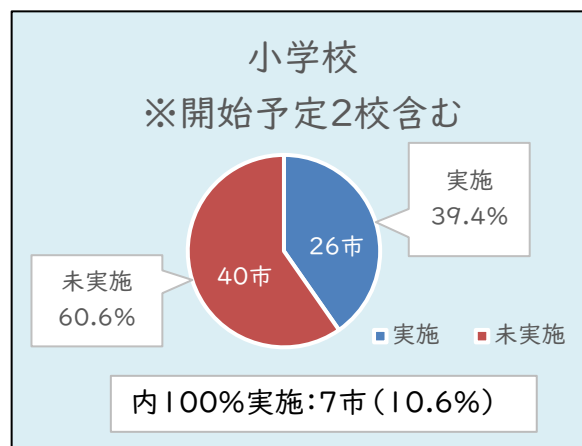
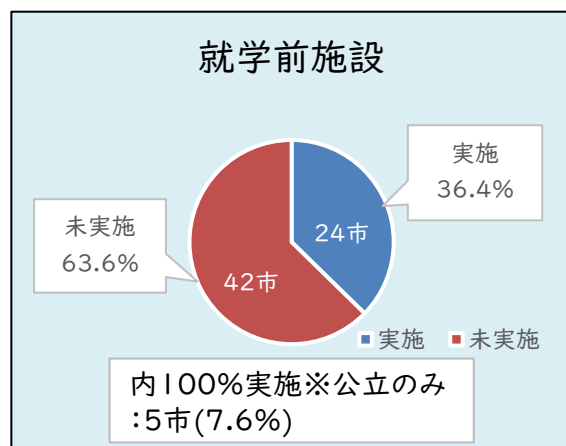


①各自治体におけるフッ化物洗口実施状況（就学前施設・小学校・中学校）

本市の状況（公立・私立）※公立幼稚園・保育所は実施施設率100%

	対象施設数	実施施設数	実施施設率（%）	対象人数	実施人数	実施人数率（%）
就学前施設	102	65	63.7	5,036	2,575	51.13
小学校	62	5	8.1	15,478	248	1.60

【他市の実施状況（まとめ）】



(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



②フッ化物洗口実施施設または、実施校における評価時期について

本市の評価時期	福島県フッ化物応用マニュアルに基づき、小学校全5～6年生以降の永久歯のみ
他市の評価時期	・12歳児の永久歯の1人平均むし歯数 ・12歳児の永久歯のむし歯有病者率 ・特に時期は定めていない ・まだ、開始して年数が経っていない

評価時期について、フッ化物洗口は継続して実施することがとても重要である。そのため、小学校6年生や中学1年生（12歳児）の時期でのむし歯本数や、有病者率で評価している中核市が多い状況であった。
また、時期を定めていない、未定であるといった回答も見受けられた。

(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



③幼児期から学齢期までフッ化物洗口事業を継続実施した学校における効果の評価方法

本市の評価方法	福島県フッ化物応用マニュアル掲載のむし歯予防率に基づき算出している。
他市の評価方法	・ むし歯有病者率、平均むし歯本数をフッ化物洗口の開始前後で比較 ・ 12歳児のむし歯のない者 ・ 12歳児の永久歯の1人平均むし歯本数 ・ 12歳児の永久歯のむし歯有病者率 ・ 実施校と未実施校でむし歯増加割合の比較 ・ 評価していない

評価方法について、実施校と未実施校でのむし歯の比較や、フッ化物洗口開始前後での比較、また、評価方法が定まっていない、評価していないという回答もあった。



(4) フッ化物洗口事業の効果検証について



参考：フッ化物洗口事業実施施設へのアンケート調査

○趣旨

- ・ 市内におけるフッ化物洗口実施施設の拡大を図るため、未実施施設に対し、事業案内等を送付のうえ実施の依頼しているが、新規実施に繋がらない状況が続いている。
- ・ 昨年度、未実施施設へ意向調査を行った結果、「時間の確保が難しい」との回答が寄せられたところである。
- ・ このため、実施施設の状況等を未実施施設にも共有することで、未実施施設における課題を解決し、新規実施に繋げることを目的として、次のとおりアンケート調査を行ったもの。

調査概要

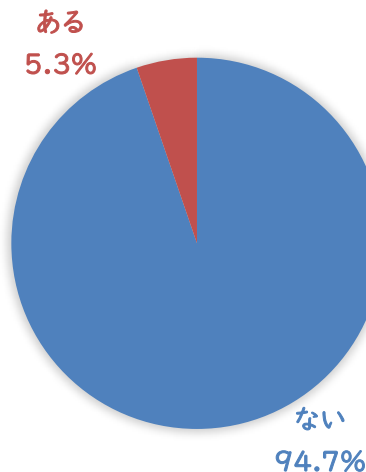
- ◆対象 フッ化物洗口事業を実施する私立就学前施設及び小学校 23施設
- ◆期間 令和6年9月25日(水)から10月31日(木)まで
※回答延長期間 11月22日(木)から11月30日(金)まで
- ◆調査方法 Logoフォーム
- ◆回答状況 19施設(回答率 82.6%)



いわき市フッ化物洗口事業 アンケート調査結果



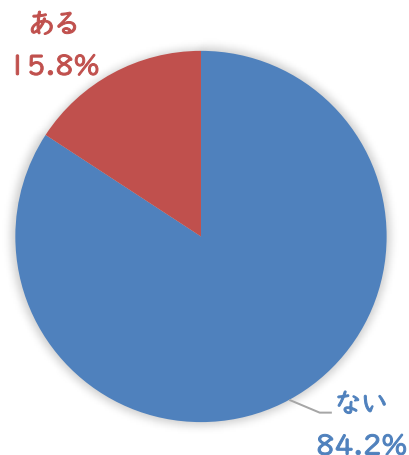
Q1 フッ化物洗口物品(洗口液含む)の保管・管理について不明なことや困っていることはありませんか。



具体的な内容

- 洗口液を職員使用の冷蔵庫に保管しているため、紛失(現時点で被害無)や、冷蔵庫の扉が閉まりきっていない等、保管状況にの不安を感じる

Q2 フッ化物洗口液の調整に係る時間等、業務への負担感がありますか。



具体的な内容

- 昼食後・午睡前の業務が重なる時間帯であること
- 洗口液調整のために保育室を離れるため、保育者が少なくなることが申し訳なく思ってしまう
- 適量の管理、余剰分の廃棄、容器の洗浄消毒、在庫管理。補助金申請、実績報告が負担である

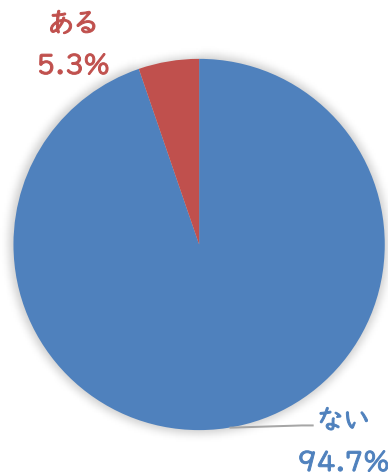
※インターネットフォームによる回答のため、前述の質問において「ある」を選択した場合のみ、具体的な内容が回答可能

Q3 フッ化物洗口を実施しない園児・児童への対応はどの様になっていますか。

- 水で洗口している
- 特になにもしていない

→ ほとんどの施設において全員実施をしているとの回答だったが、未実施児がいる場合は、水で洗口している、との回答が多数であった。他、特別何もしていない、との回答もあり。

Q4 フッ化物洗口開始後、保護者の方からの意見や質問等がありますか。

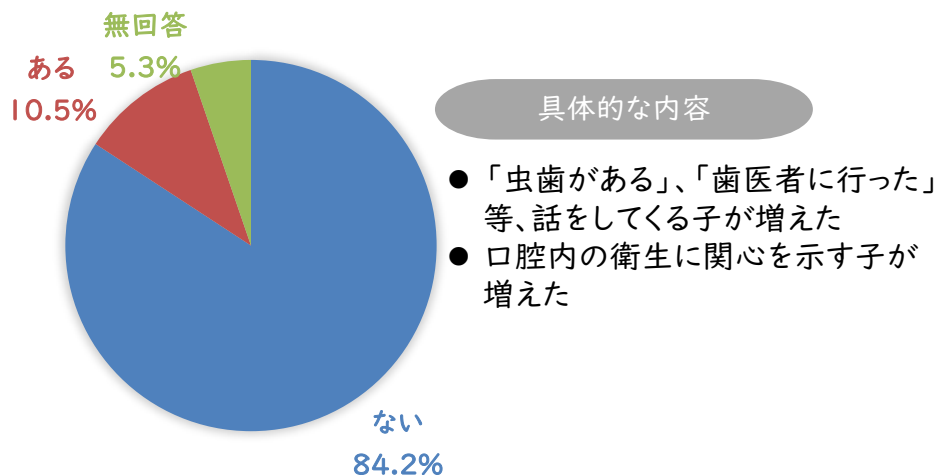




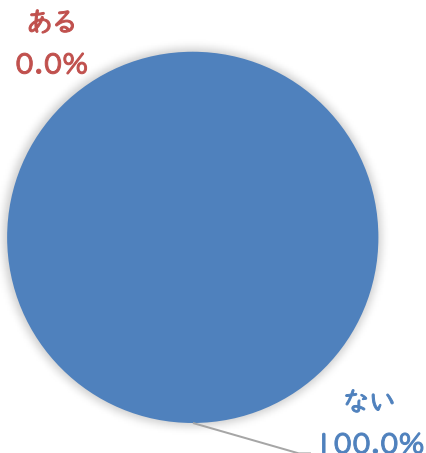
いわき市フッ化物洗口事業 アンケート調査結果



Q5 フッ化物洗口開始後の園児・児童の様子（健康に関する意識等）に変化がみられていますか。



Q6 フッ化物洗口開始後、施設職員の皆様からの意見や質問等ありましたか。



Q7 その他、感想、意見等ございましたらご記入ください。

- おし歯予防と口腔の健康のため、歯は一生大事にすることなど、就学前の園児と保護者様により深い関心を持ってもらいたい
- 導入までの負担感があったが、導入後は定型業務となり問題なし。導入に当たっては職員と保護者の理解が必要。フッ化物洗口と歯磨きを実施しているが、虫歯の発生はゼロにはできない。家庭での子供の口腔管理・おやつ等の管理が重要と思われる。
- 洗口を始めてからの経過を知りたい。小学校まで継続して実施できれば良い。
- 年中からフッ化物洗口を開始している。本年度年長児の歯科検診では虫歯が4名になり、昨年の中児の9名から減少。洗口の効果を感じた。
- フッ化物洗口に対して子どもたちも嫌がることなく実施することができるようになってきた。
- 子ども達も上手に出来るようになった。継続して変化を見ていきたいと思う。
- 20年以上前から取り組んでいるので、さほど意識の変化が見られないよう。引き続き、継続したいと考えている。
- 味を嫌がる子はいない。